



岩村 治雄 議員

次期町長選を目指すのか。その真意は？

町長 三選出馬を決意した

問

初当選以来、開かれた町政と町民重視の町政を基本として多くの町民から信頼と高い評価を得て、安定した町政を担ってきました。そして三期続投の声も聞かれています。一方で、町長職は二期ぐらいで交代するのが良いのではと言う声もある中で、次期町長選を目指すのかその真意を伺う。

町民の健康と生きがい、
元気に暮らせる町を新目標

答

町長 開かれた町政で対話と協調によるまちづくりを通して、活力ある芳賀町づくりのために、二期8年間全力で取り組んでまいりました。4年間を顧みると、前半は東日本大震災と福島原発による放射能対策に忙殺された日々でした。後半は事業の見直しを進め、徹底的に無駄を省き、借金体質を改めました。他市町に先駆けて将来を見通した事業に着手。基礎は固まってきたが、さらに町民が健康で生きがいを持ち、幸せに元気に暮らせるまちづくりを新しい目標に向かってまいります。

答

町長 I安全で安心なまちづくり

- ① 通学路の歩道整備
- ② 行政情報や各地域の諸行事など提供
- ③ 防災計画を全面見直し、全消防ポンプ車の更新、防災無線のデジタル化

II 次世代のためのまちづくり

- ① 保育園の民営化と補助、東小
学校増築と芳賀中体育館耐震工事により、小中学校施設耐震化率100パーセント

III 対話と協調によるまちづくり

- ① 農地水環境整備事業、大雪によるビニールハウス等被害支援、農業用機械購入補助
- ② 工業団地に6社の誘致で町有地は完売。商品券プレミアム分の補助、商工会運営費補助
- ③ 最小の経費で最大の効果で借金約34億円減らす

IV 誰もが元気になるまちづくり

- ① 生涯現役社会の実現のため、シルバー人材センターと社会福祉協議会を支援
- ② 生きがいサロンの充実
- ③ ウエルネス運動教室等各種教室の充実

問

選挙公約は立候補の際に、私が町長になったら実施しますと有権者に約束するものですが、町長は大きく分けて四つの公約をあげております。その公約はどのように取り組んできたのか伺います。



〈震災直後〉

問

先輩方が築いてくれた本町の将来については、今後どうあるべきなのか、そして、その実現のための課題などについて伺う。

答

町長 本格的な人口減少社会の到来、高齢化の進展、財政状況の悪化などによる経済成長の構造的停滞を懸念し、地方分権に対応できる能力と実行力や自主自立のもと、地域のこととは地域で決定できる仕組み作りを進め、元気、笑顔、思いやりのあるまちづくりを推進。

このほか、① 財政 ② 少子化と子育て支援 ③ 健康教室 ④ 高齢者支援と社会福祉協議会の在り方について町長の考えをたずねました。



〈ウエルネス運動教室〉

LRT導入について町民への説明時期は

町 遅くとも来年度の前半ぐらいに

北条 勲 議員



問

LRTの導入を目指し、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会を設置し、アンケート調査・技術的課題・人件費や保守管理等も試算されたと思います。そこで、町民に次の点について説明が必要と考えます。

- ①各地区ごとに説明の時期は、いつごろか。
- ②芳賀町分の事業費と国・県の補助金の割合は。
- ③トランジットセンターの規模や場所はどこですか。

警察と土木事務所との協議を始めた

答

町長 ①協議の結果により、基本及び実施計画を策定予定。早ければ年度内・遅くとも来年度前半ぐらいにまじめたいと考えています。
②軌道部分の整備費用は用地代も含めて概算で46億円となります。さらに、車両・車両基地・変電設備等の公共施設費がかかります。財源は国からの補助を50%を予定しております。県は未定ですが少なくとも整備事業費の町負担の50%程度の補助は期待しております。

問

LRTと交通機関との乗り継ぎが可能な停留所は芳賀工業団地管理センター付近に設置できるのか、現在検討しているところですか。



妊婦や子どもに優しいまちづくり

問

人口対策はすぐに解決できるものではありません。安心して子どもを産み育てることができる取り組みとして、次の点について伺います。
①出産準備手当の支給について
②チャイルドシート補助金として新設できないか。

問

出産準備金は議員全員協会の資料にある出産祝金事業を実施することで、出産・子育てに対する金銭的な不安払拭と第2子目以降祝金を増額することで、出生率の向上のことですか。



少子化対策は町の重要な課題

答

町長 ①平成6年度から赤ちゃん誕生祝金条例に基づき第3子に15万円、第4子に25万円、第5子以降は35万円を支給しました。児童手当の対象が拡大されたこと及び子ども医療費助成を中学3年生まで延長したことなどから平成16年度に条例を廃止しました。
昨年立ち上げた少子化対策検討委員会において、出産準備金を現在検討しているところであります。
②チャイルドシートは、子育て支援の一環として前向きに検討しております。

問

チャイルドシートを検討ではなく、予算化しますとの答えはできないか。

答

町長 そのとおり検討しています。

答

町長 現在、予算編成中で確定していませんので、そう言う表現です。



少子化対策、3人目を産み育てられる施策は

町 予算編成の中で検討

小林 一男 議員



人口動態調査によると、2035年、20年後には芳賀町の人口が1万2,000人程度まで減少すると言われています。全国の合計特殊出生率は2013年で1・43、人口を維持するのに必要な2・07にはほど遠い状況です。この主たる原因は、一組の夫婦が育む子どもの数は2人前後で長い間変化していませんが、非婚化が急速に進んだためと分析されています。人口増加対策として、結婚して子どもを産んでもらうことはもちろんですが、既婚者、これからのご夫婦に3人目を産み育てていただくことも重要と考えます。3人目を安心して産み育てていくための町の施策について伺いたいと思います。

問 芳賀町の合計特殊出生率と現状について出生順位別子ども数は

答 **町長** 芳賀町の合計特殊出生率ですが、平成22年は1・38、平成23年は1・45、平成24年度は1・43です。次に、出生順位別子どもの数についてですが、県の保健統計年報では平成24年の出生数118人中、第1

子が46人で全体の41・5%、第2子は47人で42・3%、第3子は14人で12・6%、第4子は3人で2・7%、第5子は1人で0・9%です。

問 幼児には第2子、第3子に対し保育費が減免されているが、小中学校で第2子、第3子にさらなる助成がでないか



答 **町長** 現在、小学校の給食費は月額4,430円、中学校の給食費は月額5,050円に対して、町ではそれぞれ月額1,000円の補助をしており、年間で約1,500万円を補助しています。第2子、第3子にさらなる助成というところで、仮に第2子の給食費

を半額、第3子以降を無料として試算した場合には、第2子分で約700万円、第3子以降で約850万円、合計で約1,550万円がさらに必要となります。現在の給食費補助は食育と地産地消の推進を図ることを目的としており、第2子、第3子に対するさらなる助成につきましては今後検討してまいります。

問 当町には高等学校が無く、近隣市町への通学を余儀なくされている。バス、電通学に対する補助はできないか

答 **町長** 芳賀高等学校が廃止され、路線バスの廃止や縮小も余儀なくされてきた経過があります。このため、町全体の視点からは通学費の負担や送迎での保護者の負担がふえていることは否めません。他の地方自治体の取り組みとしては、赤字路線バスや鉄道の存続のため、あるいは子育ての教育費の負担軽減策として高校生の公共交通機関、スクールバス等の利用負担に対する一部補助制度を設けているところがあります。現時点では、町としてはその状況についての調査データがあり

ません。今後、必要性もあわせて調査をしてまいります。
問 町は奨学金の貸与をしているが、第2子、第3子に対して、より手厚い助成がでないか



答 **教育長** 町では高等学校には入学しようとする方に対して、本人の成績要件と世帯の所得要件を満たした場合に無利子による貸与をしております。毎年10人程度を選考し、現在35人に貸与中で、46人が返済中となっております。町としては、将来にわたる少子化対策を図るため、貸与されている方が卒業後に芳賀町に戻っていただける方策を検討しているところでもあります。例えば、町に戻ってくれた方の毎年の返済額を軽減するなどの対応です。奨学金基金を有効活用し、かつ少子化対策も図ってまいります。

芳賀町障害者福祉計画について

町 相談支援専門員資格取得を町も推進

市川 宗司 議員



問 芳賀町障害者福祉計画について

広報・啓発活動にホームページを活用すると思いますが、啓発活動充実の窓口は何件位のアクセスあったのかお伺いします。

答 町長 啓発活動充実窓口へのアクセスは先々月の10月は2件でした。

健康福祉課長 今後、障害者の方の更新の時期とか手帳の交付時には情報提供をしてみたいと考えております。

問 障害者の相談体制について相談支援事業所の周知、相談員数の拡充資質向上に取り組むとありますが、現時点の事業所数、相談員数で今後高齢化による障害者増に充分な対応が可能かお伺いしたい。

答 町長 芳賀地区の障害児者相談支援センターの担当は芳賀管内全てを担当しており特に困難なケースの支援をしているため十分とは言えませんが職員も検討しておりますが芳賀管内の意向が一致できないのが現状です。

次の計画作成の中で必要とあれば1市4町に働きかけ実施していきたい。

問 障害者支援ボランティア育成支援についての成果をお伺いしたい

答 町長 社会福祉協議会において通院支援のための運転ボランティアと話し相手の傾聴ボランティアがあります。その他のボランティア養成には至っておりません。

問 障害者福祉サービス計画作成のおくれが報道されました、芳賀町においても福祉サービス受給者99名に対し28名の計画作成が残っており平成26年末までに作成しなければサービス受給ができなくなります、年度末まで作成可能か伺います。

答 町長 未作成者には、障害支援区分及び障害福祉サービスの更新時などに、近隣市町事業所に在籍する相談支援専門員の情報提供などを行い、年度末までに全員作成できる予定です。

問 障害者福祉サービス計画作成には、指定相談事業所の相談支援専門員の資格が必要で芳賀町内には社会福祉協議会に1名が在籍しておりますが、今後、高齢障害者の増加を考えると、相談支援専門員の増員を社会福祉協議会等と協力して推進させる時期と思えますが、町長のお考えを伺いたい。

相談支援専門員
資格取得を町も推進

答 町長 障害者福祉サービス事業所である社会福祉協議会とけやき作業所には、相談員資格となる専門講習受講を進めていきたいと考えています。

健康福祉課長 町には障害者に関するサービス事業所がけやき作業所と社会福祉協議会の2カ所だけございます。勤めている方は相談の経験が5年以上の方もいますので、ぜひ講習を受けていただいで資格を取っていただくよう、町も担当としても勧めたいと思います。





水沼 孝夫 議員

地方創生における祖母井中心市街地及び各行政区の活性化について

町 10年先20年先を見据えてしっかりとやって行きたい。

地方創生における
祖母井中心市街地
及び各行政区の活性化について

問 まち・ひと・しごと創生会議の総合戦略として、人口減少と地域経済の縮小の悪循環を断ち切ることを目指すと

し、地方への新たな人の流れを生み出す戦略を講じるとしている。中心市街地の祖母井地区の活性化について、LRTが芳賀工業団地まで整備されるのに伴い、LRTを中心に据えた市街地再整備構想をつくり、祖母井延伸を芳賀町版地方創生の核に据えていく考えはないか伺う。

答 町長 県央の新たな東西の基本的公共交通機関となるLRTが芳賀工業団地からさらに祖母井まで延伸できれば、地域活性化や産業振興、定住促進の起爆剤になることは十分考えられる。しかしながら、その為には建設費用や、運営面での採算性、開発等の課題がある。県や近隣市町と広域連携による整備が出来ないか検討する必要がある。

問 宇都宮市のコンパクトシティ地域連携軸が芳賀工業団地で止まってしまつては意味が無い。宇都宮市に対して1期目は駅東口から芳賀工業団地まで、そして2期目には駅西地区と芳賀工業団地から祖母井まで、と言う具合に地方創生のこの機に祖母井までの延伸を図るべきと考えるが如何か伺う。

答 町長 私もそのように考えている。総合戦略の中で是非ともそういうものも検討していきたい。

問 具体的な提言を5点申し上げる。

- ① 役場南側にLRTのトランジットセンター(TC)を先行して造り、LRT開通までの間、芳賀工業団地TCまで接続用シャトルバスを15分間隔で運行させる。そして町内循環バスを発着させる。
- ② 少子高齢社会に対応して全ての町民の福祉の向上と健康維持、増進を図る総合福祉ゾーンを祖母井TCに隣接して造る。
- ③ 土地区画整理事業で市街化区域を拡張し、民間活力をかつかって大規模市街地開発を行い定住促進と人口増を図る。

④ 病院や医療モールの整備、地元事業者が知恵を出し、若者が集えるスポットを作る。

⑤ 工業団地は、以上の企業の誘致が出来ない。早急に拡張し雇用を創出する。

人口フレームを見直し、以前の2万人に改め、『総合戦略』を策定すれば向こう10年以上の経済効果が見込める。地方創生の好循環が生まれ、芳賀町への新たな人の流れを生み出すことが出来ると思えるが如何か伺う。

答 町長 5つの提言を挙げられたが、検討して一つ一つ積み上げて人口増を図れば良い。見直しの中でやっていければと思う。

問 少子高齢化・人口減少の進む各行政区の現状及び今後の推移を中長期的スパンで分析してみると、地元志向の若者の定住や、都市部の若者や女性の転入を議論が必要がある。町長は2期8年で34億の借金を減らした。場当たりの施策を他市町と横並びでやっているは無駄な投資となる。財政の自由度を生かして子供達や将来にしっかりと利益を享受できる投資に舵を切る必要があると思いが考えを伺う。

答 町長 大きな問題としては、LRT、芳賀高跡地活用や住居地域の拡充、そして第2工業団地の整備がある。魅力あふれる芳賀町にしていく為、10年先20年先を見据えてしっかりとやって行きたい。



「健幸」な町づくり 受診率アップ策は？

町 きめ細かな施策で受診率は毎年増加！

増淵 さつき 議員



問 本年の重点施策の一つ、健康づくりの推進については、昨年度からウエルネス運動教室が開催され健康づくりに重要な運動に特化した施策が展開されています。

一方、病気にかからない健康づくりでは、疾病の早期発見のため特定健康診査の受診率を向上させる必要があります。受診率向上のため取り組みまれた施策をお聞きます。

受診率46%は
県内でも上位

答 町長 受診率向上のため①年度当初に対象者全員に特定健康診査券を郵送し、受診券に事業所健診の報告依頼文を挿入 ②腎機能検査の導入による健診内容の充実 ③未受診勧奨のためのハガキによる通知

当初の受診率は、平成23年度が40%、24年度が45・6%、25年度が46%で、県内では上位に位置しています。

問 胃がんハイリスク（ABC）検査を導入する予定はありますか。

答 町長 ABC検査の導入を検討しましたが、精密検査受け入れ医療機関の対応困難が予測され断念しました。そこで、感染率が低い19歳から39歳の方を対象にピロリ菌抗体検査のみを昨年度から開始しました。

対象を順次引き上げられるよう医師会と協議してまいります。

*胃がんハイリスク（ABC）検査とは、ピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の程度を測定し、胃がんになりやすい状態かどうかをA～Dの4群に分類して測定する。



どうなる
梨の里マラソン大会

問 芳賀町民祭は「梨の里マラソン大会」で幕開けとなるのが恒例でした。本年開催していただければ第29回になる大会です。

中止の経緯をお聞きします。

赤羽有紀子ロード制定記念
マラソン大会開催へ

答 町長 今年3月に宇都宮を横断するため、コースの変更が必要になったことと、赤羽さんの偉業をたたえた「赤羽有紀子ロード」制定を踏まえ、「梨の里マラソン」を発展的に解消し「赤羽有紀子ロード制定記念マラソン・ウォーキング大会」を開催するに至りました。

問 今回のコースは梨畑の中の名にふさわしいコースです。今後、名称の復活はありますか。

答 町長 検討させていただきます。

問 本年度からの機構改革により社会体育係が生涯学習課から健康福祉課に再編されました。生涯スポーツ振興のためには、生涯学習課との連携がさらに必要ではありませんか。

答 町長 生涯スポーツの振興は健康で文化的な生活を営むために不可欠です。しかし近年、運動力の低下が課題として挙げられており、健康づくりの観点から健康福祉課に移しました。健康維持、体力増進のため、さらに生涯学習課との連携を図ってまいります。



〈赤羽有紀子ロード制定記念大会〉